

大東市 歴史的資源活用基本方針

大阪府大東市
平成27年11月

はじめに

大東市には歴史的資源が至るところに存在しております。これらは大東市域で育まれてきた地域文化の基盤であり、これを貴重な財産として保存・継承していく必要がある一方で、多様な活用の可能性があるにも関わらず、その魅力を本市のまちづくりへ十分に活用しきれていない状況でした。

このため、歴史的資源をもっと幅広く多角的な視点から、市の魅力発信のための素材としてとらえ、活用していくことが、今後の本市のまちづくりにおいては不可欠であると考えます。

そこで、この度、専門家の力を借りながら、本市における歴史的資源を様々な角度から整理し、つなぎ合わせて物語化するという作業に取り組んでまいりました。

そして、歴史的資源を本市の魅力発信のために活用する際の指針とすべく、「大東市歴史的資源活用基本方針」を策定いたしました。

今後は、この基本方針に基づいて、物語化された歴史的資源の魅力を一層磨き上げ、最大限にまちづくりへ活用してまいりますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

大東市長 東坂 浩一

1. 策定の目的

大東市の歴史的資源について、

- ① 重層的な観光資源としてつなぎ合わせ、大東市の魅力を発信する際のベースとして活用する。
- ② 今後のまちづくりの方向性を示す指針として活用する。

2. 策定の進め方

- ① 本市に存在する歴史的資源を時代、地域、その他関連する分野（例：建物、文化、河川、街道等）により整理する。
- ② 整理した歴史的資源を重層的につなぎ合わせ、本市の魅力を発信するための観光資源として、あるいはまちづくりの核として活用するための基本方針を策定する。

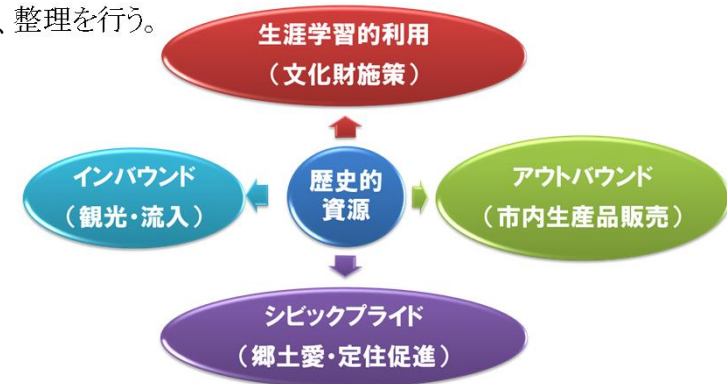
目次

・ 策定に当たっての基本的な考え方	・ ・ ・ ・ ・	3
・ 作業フロー	・ ・ ・ ・ ・	3
・ 大東市における歴史的資源のまとめと活用の方角性	・ ・ ・ ・ ・	4
・ 大東市の特異性～「水」を規定する地勢により大きく3つに分かれた時代～	・ ・ ・ ・ ・	5
・ 各時代ごとの整理		
・ 【古代】～河内南部の王権および北河内の渡来人との強い関係を伺わせる先端地域だった時代～	・ ・ ・ ・ ・	6
I・曙の記憶 ①旧石器～縄文・弥生期 大東市域に人が住み始めたころの記録	・ ・ ・ ・ ・	6
II・古代王権との関係 ②古墳時代の大王政権と、この地の古代豪族の関係	・ ・ ・ ・ ・	6
III・中央の威令 ③律令制の痕跡	・ ・ ・ ・ ・	7
・ 【中世】～人やものが行き交い、京都文化やキリシタン習俗が流れ込んだ先端地域だった時代～	・ ・ ・ ・ ・	8
IV・戦の道 ④四條畷の戦いを巡って	・ ・ ・ ・ ・	8
⑤飯盛城と三好長慶の時代	・ ・ ・ ・ ・	9
V・集落の信仰をつなぐ道 東高野街道 ⑥山の辺の集落の氏寺・氏神	・ ・ ・ ・ ・	10
古堤街道 ⑦淵の辺の集落の氏寺・氏神	・ ・ ・ ・ ・	11
VI・龍間越 祈りの道 ⑧修験道と龍神信仰	・ ・ ・ ・ ・	12
・ 【近世】～新田開発により人の知恵と力で「商都・大坂」を支える豊かな農村を発展させた時代～	・ ・ ・ ・ ・	13
VII・豊かな暮らしへの祈り ⑨治水と豊作を祈る集落の氏寺・氏神	・ ・ ・ ・ ・	13
⑩神とともに豊作を喜ぶ だんじり	・ ・ ・ ・ ・	14
VIII・賑わう往来の記憶 ⑪交通の繁栄とおかげまいり、おかげ灯籠	・ ・ ・ ・ ・	15
⑫野崎まいり	・ ・ ・ ・ ・	16
IX・豊かな集落の風景 ⑬御領の水郷地域	・ ・ ・ ・ ・	17
⑭新田開発の遺構・平野屋新田会所跡	・ ・ ・ ・ ・	18
・ 【通期】～観光資源として既に確立した歴史ある野崎漢音～	・ ・ ・ ・ ・	19
歴史的資源の物語化とその評価の指針 まとめ表	・ ・ ・ ・ ・	20
・ 15の物語の活用可能性評価のまとめ、注力度評価	・ ・ ・ ・ ・	21
□ 活用可能性評価と注力度についての考察（古代から中世）	・ ・ ・ ・ ・	22
・ 古代・中世における各物語の現状・判断・指針及びインバウンド評価のまとめ表	・ ・ ・ ・ ・	23
□ 活用可能性評価と注力度についての考察（近世）	・ ・ ・ ・ ・	24
・ 近世・通期における各物語の現状・判断・指針及びインバウンド評価のまとめ表	・ ・ ・ ・ ・	26
・ 大東市歴史的資源活用基本方針（総括）	・ ・ ・ ・ ・	27
・ 参考資料	・ ・ ・ ・ ・	28

策定に当たっての基本的な考え方

◆「歴史的資源の利用」とは、市民の文化レベルの向上に資する利用が基本であるが、当該方針の策定を進めるに当たっては、観光資源やシビックプライドの資源としての活用も考え、評価判断を加えて、活用できる歴史的資源を絞り込む。

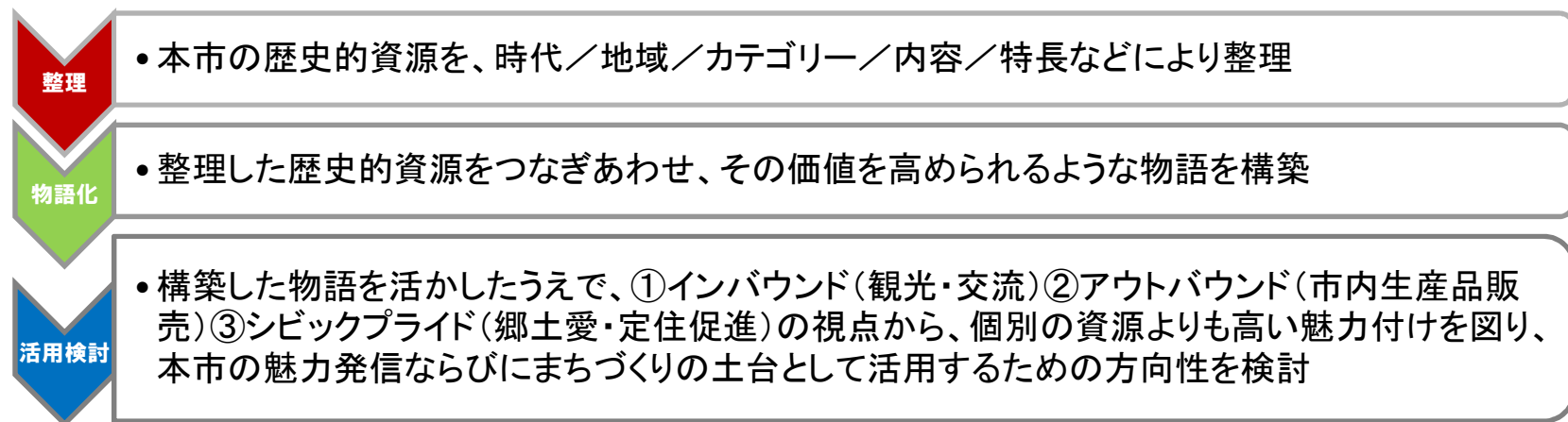
- 歴史的資源を、多角的にまちづくりへ生かしていくため、次の3点の視点から、整理を行う。
 - ①インバウンド(観光・交流の活性化)
 - ②アウトバウンド(市内生産品に付加して販売に寄与)
 - ③シビックプライド(郷土愛の醸成、定住を促進)
- 歴史的資源の価値そのものに優劣を付けるわけではなく、あくまでも「観光、ブランド資源、シビックプライドの資源」としての評価であり、どの資産に絞り込むのかという、そぎ落とすための評価とする。



◆歴史的資源を組み直すことで、意味づけ、魅力付けを高めることを図る。

- 既に主要な歴史的資源として拾い上げ、地域や特性別に、(見学コースやテーマ的に)纏められている先達の事績を基にして、それを整理し、より先鋭化させ、観光資源、或いは一般市民のシビックプライド形成に資するような編集と、輝かせる整備、活性化の方針を固めることに注力する。

作業フロー



大東市における歴史的資源のまとめと活用の方向性

大東の特異性
～水域により大きく3つに分かれた時代～

古代
～広いエリアが水域(河内湾・河内湖)だった時代～

中世
～大きな池や湿地が広く残っていた時代

近世(～近代以降)
～新田開発を経て豊かな農村として発展を遂げた時代

大東の歴史は、水域の影響を受けつつも、大きく「2つの物語」を経て発展してきた

知られざる最先端の繁栄の物語

2つの物語

人の知恵と力で豊かな農村を発展させた物語

- ①古代 ～河内南部の王権及び北河内の渡来人と強い関係を伺わせる先端地域～
- ②中世 ～人やものが行き交い、京都文化やキリシタン習俗が流れ込んだ先端地域

時代	構成物語
①古代	① 旧石器～弥生期大東市域に人が住み始めたころの記録
	② 古墳時代の大王政権と、この地の古代豪族の関係
	③ 律令制の痕跡
②中世	④ 四條畷の戦いを巡って
	⑤ 飯盛城と三好長慶の時代 ☆キーコンテンツに設定
	⑥ 山の辺の集落の氏寺・氏神
	⑦ 淵の辺の集落の氏寺・氏神
	⑧ 修験道と龍神信仰

- ③近世 ～新田開発により人の知恵と力で「商都・大坂」を支える豊かな農村を発展させた時代～

時代	構成物語
③近世	⑨ 治水と豊作を祈る集落の氏寺・氏神
	⑩ 神々とともに豊作を喜ぶ＝だんじり
	⑪ 交通の繁栄とおかげまいりおかげ灯籠
	⑫ 野崎まいり
	⑬ 水郷
	⑭ 新田開発の遺構

通期 ～観光資源として既に確立した歴史ある野崎観音

時代	構成物語
通期	⑮ 福聚山慈眼寺(野崎観音)

歴史的資源
の活用視点

「2つの物語」を利用することで、来街者に向けたインバウンド&アウトバウンドの拡大、市民に向けたシビックプライドの形成に寄与させていく

インバウンド
(観光・流入)

アウトバウンド
(市内生産品販売)

シビックプライド
(郷土愛・定住促進)

大東市の特異性～「水」の規定する地勢により大きく3つに分かれた時代～

- 大東市は、その地勢的特徴において、大きな歴史的変曲点を持ち、時代ごとに全く違った容貌を見せる特異な地域である。
- ①古代には現在の大東市域の中で居住地等になっている平野部の大部分は、河内湾、河内湖といった水域であった。
- ②中世に至ると海面は大きく後退したものの、深野池と、大和川が作るデルタの広大な湿地など人が暮らすには簡単ではない地域が広く残り、人は生駒山地の西麓と、水域の岸边、三角州や水面に浮かぶいくつかの島々の中で安定した土地に集落を作り、そこに拠って水を利用しつつ、水害と闘いながら生活するほかなかったと思われる。
- ③近世以降の大東市域は大和川の付け替えと、新田開発によってその状況が大きく変わった。人の利用を拒んだ池や湿地は、豊かな農村に変わり、天下の台所大坂の近郊生産地として豊かな発展がはじまり現代に至っている。
- こうして考えると、大東市の歴史とは「水と闘い、水を治め、水を利する」ことそのものの歴史だっただろう。
- その中で、後半部の、水を治め、豊かな農村となった時代にももちろんこの地域を語るにふさわしいテーマがいくつも
あるが、そればかりでなく、前半部の、市域の中心部に満々と水をたたえ、人々がその周辺で生きた時代にも、
それが故にこの地域を特徴づける歴史的なテーマがちりばめられている。
- このため、大きな三つの時代区分を設定し、それぞれの中で幾つかのテーマを取り出すこととする。

古代～広いエリアが水域（河内湾・河内湖）だった時代～

中世～大きな池や湿地が広く残っていた時代～

近世以降～新田開発を経て豊かな農村として発展した時代～

【古代】 ～河内南部の王権および北河内の渡来人との強い関係を伺わせる先端地域だった時代～

I・曙の記憶 ①旧石器～縄文・弥生期 大東市域に人が住み始めたころの記録

- ◆ 大東市域では河内湾湖の岸边や島等の陸部の遺跡から、多くの遺物が出土している。
- ◆ 先史時代の早期から、人の痕跡があり、住みやすい土地であったことが伺われる。
- ◆ 但し残念ながら、それぞれの歴史的資源は、古代史上の遺物としてはスタンダードなもので、一般的な古代の暮らしは描けても、大東市域の古代という個性的な物語を描くのは難しい。
- ◆ それでも大地があり、海となり、それが引いて行く太古を通じて人が住み続けてきた豊かな土地であったことは、この地域に今住む人々に於いても重要な大東市域の歴史といえるだろう。
- ◆ 現在大東市に住む市民に対し、大東市域が古代から豊かな土地であったことを知ってもらえるような生涯学習的な利用の為の整備を進めて行くことを考えたい。

II・古代王権との関係 ②古墳時代の大王政権と、この地の古代豪族の関係

- ◆ 堂山1号墳は、その造成年代や場所、豊富な埋納物から埋葬者は河内王権に繋がるとともに、馬飼野などに繋がる渡来人との関係も深い、王朝の渡来人コーディネーター的な人物だったかもしれない。
- ◆ このことは5世紀前半の大東市域が、有力豪族と渡来人が活躍する最先端地域であった可能性に繋がる。
- ◆ 大東市のみに捉われず、枚方、四條畷など北河内の他地域の渡来人遺跡と連携することで、古代史の中で堂山古墳群の価値が、大きく向上する可能性がある。
- ◆ 他地域との連携で、渡来系氏族、有力豪族と堂山古墳の関係を、ある程度精緻化するアプローチが望まれる。



堂山1号墳



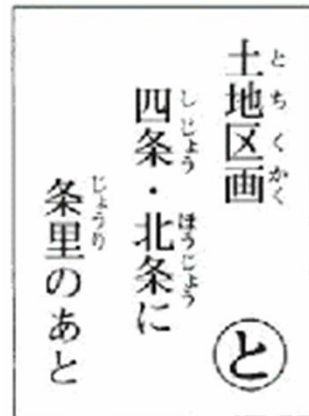
甲冑 三角板革綴衝角付冑、三角板革綴短甲（大阪府指定文化財）

Ⅲ・中央の威令 ③律令制の痕跡

- ◆ 大東市域は奈良盆地に成立した中央政権とも距離が近いばかりでなく、奈良と海を結ぶ水上交通のルート上にあり、比較的早くから中央政権の威令が行き渡っていたと思われる。
- ◆ その痕跡としては条里制の地名くらいしか残っておらず、具体的な文化財と言えるものはない。
- ◆ 従って、大東市域における奈良時代をテーマとした歴史的資源の整備は、文字化された学術資料や現地案内板等の整備から、しっかりやって行くことが望まれる。



ふるさとかるた



【中世】～人やものが行き交い、京都文化やキリシタン習俗が流れ込んだ先端地域だった時代～

IV・戦の道 ④四條畷の戦いを巡って

- ◆「四條畷の戦い」は南北朝の戦いの中でも非常に華々しい歴史的な光彩を放つエピソードの一つである。
- ◆但し楠木一族のコンテンツは潜在力があるが、デメリットもあり、注目され難い過去のコンテンツとなっている現状を踏まえながら、活用の方向性と可能性を考えていかなければならない。
- ◆大東市内には遺跡、遺物等はほとんど残っていないが、そもそも古戦場は地勢そのものが遺跡なので、土地活用で残り難く、公園に記念碑のみの処が多い。
- ◆問題なのは、「ハラキリ」「古戦田」等の地名があったが、現在の住所からは消え、記念碑なども一切ない点。
- ◆今後、居住者の記憶からも消える可能性を考えると、地域の歴史として残すために、記念碑や解説版など「ここでその戦いがあった」ことを示すようなシンボルは望まれる。
- ◆「四條畷の戦い」の舞台の地を、一挙に四條畷市から大東市に認識を変えるのは難しいが、こちらが主張する真実を、少なくとも現場に残し、折に触れアピールすることで徐々に変化させることは可能だろう。
- ◆四條畷の戦い開戦地や激戦地（古戦田）、終焉の地（ハラキリ）などの解説板の現地設置が望まれる。



四條畷古戦場(大東市北条2丁目(旧古戦田)付近)



飯盛山 楠木正行像

IV・戦の道

⑤飯盛城と三好長慶の時代

- ◆大東市にある「飯盛城」は、織田信長に先んじて、初代天下人が、天下の政治を司った天下城の遺跡。
 - 城主三好長慶は、足利将軍を放逐し、畿内の権力を一手に収めた最高権力者。文化度も高い第一級の人物。
- ◆飯盛城は、戦国時代の山城として第一級の遺跡である。
 - 大小数十か所の郭が連なり東西400m、南北600m以上を超える、中世最大級の連郭式山城である。
 - 切岸や土塁、土橋、虎口、石垣、堀切、郭などが完全ではないが比較的よく残っている。
- ◆大和川を通じ堺へ、さらに海外へと繋がる飯盛とその周辺の北河内は、当時の最先端地域であった。
 - 三箇城、野崎城はもとより、東大阪や四條畷の支城とも連携することも可能な支城ネットワークがあった。
 - 特に三好長慶が許可したことで多くの家臣と領民がキリシタンになり、河内はキリシタンの中心地として繁栄。
 - 家臣の支城周辺には教会堂が立てられ、宣教師たちが住み、南蛮の文物や習俗が流れ込んだ。
- ◆三好長慶の飯盛城は野崎城や三箇城、三箇キリシタンや永祿銘地藏までを繋げて、「織豊時代を先取りして繁栄した戦国時代の最先端地域、飯盛北河内」の物語を紡ぐことが可能である。
 - 現状これらの事績は、一般には殆ど知られていない。だからこそ知られば、おおきな関心と呼べるだろう。
 - 残されているものは、三好長慶に関する文書、河内キリシタンに関する宣教師の手紙など文書が主軸。
 - ただし、飯盛城跡が目に見えるものとして整備されれば、それを核として情報発信が可能になる。
- ◆【ハード】今後「飯盛城跡、三好長慶、河内キリシタン」のセットで学術研究と遺物、遺跡の整備を進める。
- ◆【ソフト】人々に「飯盛城跡、三好長慶、河内キリシタン」による「戦国最先端地域」の物語を浸透させる。
 - 市民に対して飯盛城跡を中心とした「戦国時代の最先端地域だった大東市域」の物語を啓発する
 - 市外の歴史ファンに対して三好長慶と飯盛城跡を中心とした「戦国最先端地域」の物語を啓発する
 - 市外の歴史無関心者に対して、「知られざる謎の戦国史」として話題化。
- ◆上記ハード、ソフトの両輪を同時に回すことで、シビックプライドの形成と市外からのインバウンドを呼び込む。
 - ハード例 ・史跡指定への調査・関係資料収集・調査委員会・市民運動化・啓発リーダー育成・利用検討委員会
 - ソフト例 ・調査自体のイベント化（ＴＶ番組化）・市民イベント計画から資料館構想までのPR策



飯盛山 遠望



飯盛城 石垣



三好長慶像（堺・南宗寺）

V・集落の信仰をつなぐ道

⑥山の辺の集落の氏寺・氏神

- ◆ 東高野街道に沿った集落に中世からあり続けた寺社は、集落の繁栄を守り、その集落の人々の往生と来世を願った、集落の氏神、氏寺である。
- ◆ 現在の神社や寺も、そのような集落の人々によって守られ、伝えられているものと思われる。
- ◆ ここにあげた多くの「氏寺氏神」は、現代化された集落の中で、規模の大きなものでなく、日常的な風景になってしまっていると思われ、一般的にいう歴史的資源としての価値は、残念ながら決して高くない。
- ◆ ただし、集落に暮らす者にとって、社寺はその集落が戦国期から乱世を生き抜き、近世を作り、近代に発展したこの集落の歴史とともにあった、その集落の一体感のシンボルとなりえるものである。
- ◆ この集落の氏寺、氏神は、神社と祭礼、寺院と墓参や縁日などの集落の風習や行事とともに、その集落を活性化する「集落の歴史的背景とともにある、生活風俗資産」である。
- ◆ 歴史的資源の利用・活用の仕方として、観光化の資材として使うのではなく、「集落の歴史的背景とともにある生活風俗資産」を次世代に伝承し、集落を活性化するための、シンボルとして、その現場として集落の社寺を利用する方向性が求められる。



北條神社



大谷神社



南條神社



寶搭神社



専應寺 本堂



十念寺

V・集落の信仰をつなぐ道

⑦淵の辺の集落の氏寺・氏神

- ◆ 古堤街道沿いの寺社も、集落の里人の、氏神、氏寺として、集落の繁栄を守り、その集落の人々の往生と来世を願った、集落の為のものであった。
- ◆ 東高野街道沿いの中世の社寺同様、一般的にいう歴史的資源としての価値は、残念ながら決して高くない。
- ◆ やはり、集落に暮らす者にとって、その集落の一体感のシンボルとなる「集落の歴史的背景とともにある、現在進行形の生活風俗資産」として、集落の活性化に活用していくような利用が求められる。

- 東高野、古堤街道には集落の信仰の事績があり、集落のアイデンティティを形成している。
- 中世から集落とともに生きてきた社寺は歴史的資源と言うよりも、現代まで続く集落の郷土遺産としての信仰や風俗を継承してわがまち、ふるさと大東の意識を高めるベースとして利用する。
- 街道・集落の信仰遺産は、集落の氏寺、氏神への信仰の風習を継承すべく、郷土意識の高揚を図る。



善宗寺



須波麻神社



素戔鳴神社



本妙寺



正覚寺



本念寺



氷野北野神社

VI・龍間越 祈りの道

⑧修験道と龍神信仰

- ◆ 生駒山と飯盛山の鞍部にある龍間集落は、龍神信仰と不動明王信仰、役行者信仰などの修験道や浄土信仰に関わる特異的な宗教的な歴史的資源が色濃く集中しているゾーンである。
- ◆ 従って、龍間を現代まで続く、修験道や龍神信仰のような、若干ミステリアスな宗教的色彩が強い空間としての空気を醸し出すことが可能な地域と考えられる。
- ◆ 龍間の歴史的資源には、現代まで続く、「不思議な力が得られる、パワースポットのエリア」という物語を創成できるベースがあり、今日的なインバウンドマーケットを取り込める可能性があるだろう。



役小角



不動明王



八大竜王



龍光寺



龍間寺本尊千手観音



役行者飛翔像



一石二段六地藏板碑（市指定文化財）



一石十三仏



灰塚行者堂



【近世以降】～新田開発により人の知恵と力で「商都・大坂」を支える豊かな農村を発展させた時代～

Ⅶ・豊かな暮らしへの祈り ⑨治水と豊作を祈る集落の氏寺・氏神

- ◆ 戦国の戦が収まって後に立てられたと思われる大東市域の寺院は、ようやく農耕に精を出せるようになった集落の農民たちが日々の安穩と来世の往生を願って念仏した、大衆の為の寺である。また神社には、雷神や水神を祀り、水害や水不足から逃れることへの信仰を深めた。
- ◆ これらは、人々が安心して生産に励み、豊かさに向って歩み出した証左であろう。
- ◆ 創立からの歴史も深い浅いがあり、残されている造作物にも見るべきものもあるが、そういったもので人を呼ぼうと寺院や神社の目に見える価値を比べると、特別高い価値があるというわけではない。
- ◆ しかし、中世でも、集落の氏寺、氏神がそうだったように、やはりその集落にとっては特別な氏寺、氏神であり、一体感のシンボルとなるものである。
- ◆ やはり、中世の氏寺、氏神と同様に、その歴史とともに伝統行事、習俗を伝え、一体感を体感するとともに、豊かに発展してきた集落の歴史を認識することで、誇りある集落としての活性化に利用できる。



五百羅漢像（勝福寺）



諸福天満宮



三箇菅原神社



御領菅原神社



竈（おかみ）神社



寛順寺



常宗寺



御供田
八幡宮



坐摩神社



本伝寺



太子田大神社

VII・豊かな暮らしへの祈り ⑩神とともに豊作を喜ぶ だんじり

- ◆ 大東市のだんじりは、「集落の氏神とともに豊作を寿(ことほ)ぐ」農村型神事の原型を色濃く残すもの。
- ◆ 大東市のだんじり祭りと、岸和田のだんじり祭りは、全く異なる祭りであり、比べるべきものではないのだがどうしても「だんじり祭り」として一括して見られてしまいがちで、比べられると、N0.1にはなれない。
- ◆ 大東のだんじりを「町衆だんじり」とは違う「農村だんじり」のNo.1に位置付けてインバウンドを獲得する。
 - 威勢の良さを競う町衆だんじりとは違う「集落と神々との交歓」の素朴な祭りの魅力をより高めて行く。
 - 集落内のつながりと、集落間の健康的な競争意識を堅持、活性化する支援をおこなう。
 - 外来者に向けての、告知や現場案内、観覧席や休憩所などのホスピタリティは当然のことながら高める。
 - 「豊作を神と共に寿ぐ農村の素朴な神事」という価値の本質を、来街者と、参加住民も含めて啓発する。

大東市のだんじり祭り風景



Ⅷ・賑わう往来の記憶 ⑪交通の繁栄とおかげまいり、おかげ灯笼

- ◆ 大東市には、おかげ灯笼や道標など、人々の往来に伴って建てられた石造物が多く残る。
- ◆ それらは、人心が安定し経済が向上し、往来が活発であったこのエリアの歴史的資源である。
- ◆ 古堤街道や東高野街道の現状は、街道の魅力を伝えるには難しく、おかげ灯笼や道標も、野仏等とは異なり、それ自体が鑑賞物としての魅力を持つとは言い難い。
- ◆ しかし痕跡であり過去の記念碑として、移動や街道のにぎわいを記憶に残すよすがとなり得る。
- ◆ おかげ参りの記録に繋がるおかげ灯笼や人の往来の賑わいの証となる道標は、近世のこの土地が交通上の要路であった証である。大東市の発展の歴史の大きな物語の物証として活かしていく。



おかげ灯笼（灰塚）



須波麻神社おかげ灯笼



大谷神社おかげ灯笼



東高野・古堤街道交差点石碑



古堤街道碑（住道本通商店街）

Ⅷ・賑わう往来の記憶 ⑫野崎まいり

- ◆ 野崎まいりは、江戸時代大評判を呼び、多くの人が押し寄せた秘仏十一面観音の短期御開帳。
- ◆ 参詣だが、日帰りできる距離で、舟でも行き来できる、気軽な庶民のレジャーとして定着した。
- ◆ 現代でも縁日に、20万人以上の人出を呼び込む、既に有力な集客装置である。
- ◆ ただし、野崎観音の歴史への関心や認識は高いと思われず、参詣すらない客も多そう。
- ◆ 野崎まいりの人出を、参詣、歴史認知を入口に大東市への関心に結び付け、市への再来訪を促す。
 - 船着き場や道中の風俗、参詣の正式ルートなど、野崎まいりの歴史的資源は、ほぼ全盛期の舟運に関わるものである。
 - 屋形舟を現代によみがえらせ、野崎まいりの来街者に体験させることで、野崎まいりの歴史に触れさせる。
 - 野崎まいりクルージングの定期化や、現代の振り売り喧嘩を仕込む等が考えられる。



福聚山慈眼寺 本堂



慈眼寺本尊十一面観音（秘仏）



野崎まいり（河内名所図会）



「大東八景・絵日傘の舞」
に描かれる野崎観音と
お染久松



野崎まいり：参道のにぎわい 露店



現代に復活した野崎まいりクルージング



復活 野崎まいり（昭和十年頃）

Ⅸ・豊かな集落の風景

⑬御領の水郷地域

- ◆ 御領の水郷風景は、まず、風景として古い町並みが残されており、ビジュアル性が高い。
- ◆ 田舟乗船、庄屋敷見学など、体験性が高く楽しめる。
- ◆ 御領の水郷単体でも観光資源としての価値はそれなりに高い。
- ◆ 大東市の歴史的資源の中でも特異的にエンターテインメントの可能性を持っている。
- ◆ ただし、関西エリアで見ると強力なNo.1競合も、隣接する身近な競合も存在する。
- ◆ 水郷、乗船という、御領の持つ魅力一点で争うのではなく、大東の持つ他の歴史的資源との総合力で 価値を高め、来街者を引き付けて行くことが望まれる。



御領水路



御領水路船着場



御領菅原神社前水路



御領の街並み



御領水路と田舟



辻本家



体験性の高い田舟乗船



ビジュアル性の高い古い町並み

Ⅸ・豊かな集落の風景

⑭新田開発の遺構・平野屋新田会所跡

- ◆豊かな集落の風景 新田開発の遺構、歴史的資源として機能するのは平野屋新田会所のみである。
- ◆但しそれを以ってして、新田会所というカテゴリーでインバウンドを望むには、一般大衆の関心を集めるだけのインパクトを持たせる工夫が必要であろう。
 - 新田会所の学習ならば、本宅まで完全に残した鴻池新田会所が活発に行っている。競合は強力である。
- ◆平野屋新田会所という、一つの歴史的資源で人を呼び込んだり、市民に誇りを感じてもらうのではなく、大東の持つ他の歴史的資源を組み合わせた総合的な価値を高め、人を引き付けて行くことが望まれる。
- ◆また、近隣の会所関連施設との事業連携についても検討を行っていく。



取り壊し前の平野屋新田会所（長屋門）



土蔵/米蔵（昭和30年頃）



主屋棟/座敷棟



船着き場跡



発掘調査風景



平面図



深野会所跡地
（両皇太神社）

【通期】～観光資源として既に確立した歴史ある野崎観音～

X・野崎観音 ⑮福聚山慈眼寺

- ◆ 野崎観音は、奈良時代、天平時代、平安時代、鎌倉時代、戦国時代、江戸時代と、様々な時代に渡ってエポックが存在する、長い歴史を持つ、それだけで集客力が現在も高いコンテンツである。
- ◆ お寺側との意向が合致すれば、例えば江口の君やお染久松比翼塚といった周辺コンテンツを使って、新たな祈りの習慣を提案し、若年女子といったターゲットを攻略していくことができるだろう。
- ◆ 但し、特に野崎まいりは、歴史的資源としてよりも、現代の楽しみ、レジャーを提供し、集客を得ている。
- ◆ 歴史教育の視点からは若干さみしいが、人は、楽しくないものにひきつけられない。楽しいものに親しみ、その後、歴史があることを知るというアプローチも、ある意味全く正しい効果的なものである。
- ◆ 但し、野崎まいりに来て楽しい思いをし、加えて野崎観音の歴史を知るだけでは、大東市域への関心や再来訪、或いは市民であれば大東市への誇りに繋がらず、野崎観音だけで終息してしまう恐れが大きい。
- ◆ 野崎観音の歴史から大東市域の歴史への関心や奥深さを知ってもらったり誇りに思ってもらうには、野崎観音の歴史と、他の大東市域の歴史コンテンツとを関係づけ、関心を転嫁させる物語作りが必要である。
- ◆ 野崎まいりと新田開発や、十一面観音と飯盛城の三好長慶といった形で、様々なテーマ、物語に野崎観音慈眼寺の持つコンテンツを利用しつくすことで、大東市への関心を高めることに寄与できると思われる。



慈眼寺本尊十一面観音（秘仏）



江口の君



石造九重層塔



お染久松比翼塚

歴史的資源の物語化とその評価と指針 まとめ表

- 歴史的資源の整理・物語化を行った結果、①古代 ②中世 ③近世以降 3つの時代区分及び通期として、15の物語に整理した。

時代	大テーマ	テーマ	物語	現状	判断	個別指針(可能性)
① 古代	古代から開けた水辺の邑	I・曙の記憶	①旧石器～弥生期 大東市域に人が住み始めたころの記録	大東市域では先史時代の早期からの多くの重要な遺物が出土しているが、スタンダードなもので、大東市域の古代という個性的なストーリーを描くのは難しい。	但し大東地域が太古を通じて人が住み続けてきた豊かな土地であったことは、この地域に今住む人々に於いても重要な大東市域の歴史といえる。	現在大東市に住む市民に対し、大東市域が古代から豊かな土地であったことを知ってもらえるような教育的な利用の為の整備を進めて行くことが望まれる。
		II・古代王権との関係	②古墳時代の 大王政権と、この地の 古代豪族の関係	堂山1号墳の埋葬者が河内王権と渡来人にも関係の深い有力豪族で、王朝の渡来人コーディネーター的な人物だったとすると、5世紀前半の大東市域が、有力豪族と渡来人が活躍する最先端地域であった可能性に繋がる。	枚方、四條畷など北河内の他地域の渡来人遺跡と連携することで、古代史の中で堂山古墳群の価値が、例えば「有力豪族と古代渡来人遺跡群」として大きく向上する可能性がある。	他地域との連携で、この地の豪族と渡来系氏族と堂山古墳の関係をある程度精緻化していくアプローチが求められる。
		III・中央の威令	③律令制の痕跡	大東市域は奈良盆地に成立した中央政権とも距離が近いばかりでなく、奈良と海を結ぶ水上交通のルート上にあり、比較的古くから中央政権の威令が行き渡っていたと思われる。	その痕跡としては条里制の地名くらいしか残っておらず、具体的な文化財と言えるものはない。	学術資料の整備や、現地案内板等の整備の可能性を考える。
② 中世	東高野街道	IV・戦の道	④四條畷の戦いを巡って	「四條畷の戦い」は華々しい歴史的な光彩を放つエピソード。市内に残っていた「ハラキリ」「古戦田」等の地名は、現住居表示にはない。楠木一族のコンテンツは現状では注目されていない過去のコンテンツ。	現状の遺跡での集客や、一挙に大東市を「四條畷の戦い」の舞台に変えるのは難しいが、こちらの主張を、少なくとも現場に残すことで、折に触れアピールすることで徐々に変化させることは可能だろう。	今後、地名の記憶が消えて行く可能性を考えると、地域の歴史として残すために、記念碑や解説版など「ここでその戦いがあった」ことを示すようなシンボルは望まれる。
			⑤飯盛城と三好長慶の時代	飯盛城は信長に先んじた天下人三好長慶が、天下の諸政を執った天下城。飯盛城は規模が大きく、遺構がよく残った戦国山城として第一級の遺跡。飯盛・北河内は大和川で海へ繋がるキリシタンが繁栄した当時最先端地域	三好長慶の飯盛城は、野崎城や三箇城、三箇キリシタン等と繋げて、「織豊時代を先取りして繁栄した戦国時代の最先端地域、飯盛北河内」の物語を紡ぐことが、知られていないからこそ可能である。	「飯盛城跡、三好長慶、河内キリシタン」の研究と整備を進める【ハード】人々に「飯盛城の三好長慶とキリシタン」の最先端物語を浸透させる【ソフト】ハード、ソフトの両輪を同時に回しジックブライトとインバウンドを獲得する。
	古北堤横河街系内道の	V・集落の信仰をつなぐ道	⑥山の辺の集落の氏寺・氏神	東高野街道に沿った集落に中世からあり続けた寺社は、集落の繁栄を守り、その集落の人々の往生と来世を願った、集落の氏神、氏寺である。	「氏寺氏神」は、現代化された集落の中で日常的な風景になり、価値は高くない。但し集落の者にとって、社寺は戦国期から近世、近代に発展した集落の歴史とともにあった、一体感のシンボルとなる。	観光化の資材として使うのではなく、神社と祭礼、寺院と墓参や縁日などの集落の風習や行事とともに、「歴史的背景とともにある生活風俗資産」を次世代に伝承し、集落を活性化させるシンボルとして利用する。
		VI・龍間越祈りの道	⑦淵の辺の集落の氏寺・氏神	中世の古堤街道沿いの社寺も、里人の勧請によって祀られた国づくりの大本の神々や、平安から何らかの宗派に属していた寺であり、集落の里人の氏神、氏寺として集落の繁栄を守る、集落の為のものである。	東高野街道沿いの中世の社寺同様、一般的にいう歴史的資源としての価値は、残念ながら決して高くない。やはり集落に暮らす者にとって、その集落の一体感のシンボルとなる	その集落の一体感のシンボルとなる「集落の歴史的背景とともにある、現在進行形の生活風俗資産」として、信仰や風俗を継承してわがまち、ふるさと大東の意識を高め集落の活性化に活用していくような利用が求められる。
③ 近世	豊かな暮らしへの歩み	VII・豊かな暮らしへの祈り	⑧修験道と龍神信仰	龍間には、龍神信仰と不動明王信仰、役行者信仰などの修験道や浄土信仰に関わる特異的な宗教的歴史的資源が色濃く集中している	現代まで続く修験道や龍神信仰のような、若干ミステリアスな宗教的な色彩が強い空間としての空気を醸成することが可能で、今日のインバウンドマーケットを取り込める可能性がある	現代まで続く、「不思議な力が得られる、パワースポットのエリア」という物語を創成していく
			⑨治水と豊作を祈る集落の氏寺・氏神	この時期の大東市域の寺社は、戦が止まり安心して生産に励み、豊かさに向けて歩み出した農民たちが日々の安穏と来世の往生を願った寺や、水害や水不足から逃れるために雷神や水神への信仰を深めた神社である。	人を呼べる目に見る価値を比べると、見るべき歴史や造作物のものもあるが、特別高いわけではない。しかしその集落にとっては特別な氏寺、氏神であり、一体感のシンボルとなるものである。	その歴史とともに伝統行事、習俗を伝え、一体感を体感するとともに、豊かに発展してきた集落の歴史を認識することで、誇りある集落としての活性化に利用していく。
		VIII・賑わう往来の記憶	⑩神々とともに豊作を喜ぶ＝だんじり	大東市のだんじりは、「集落の氏神とともに豊作を奉ぐ」農村型神事の原型を色濃く残すもの。	大東市のだんじり祭り、岸和田のだんじり祭りは、全く異なる祭りであり、比べるべきものではないのだがどうしても「だんじり祭り」として一括して見られてしまいがちで、比べられると、No.1にはなれない。	大東のだんじりを「威勢の良さを競う町衆だんじり」とは違う「集落と神々との交歓」の素朴な農村だんじりのNo.1に位置付けて「豊作を神と共に奉ぐ神事」という価値の本質を啓発し魅力をより高めインバウンドを獲得する。
			⑪交通の繁栄とおかげまいりおかげ灯籠	大東市には、人心が安定し経済が向上し、往来が活発になったこのエリアの歴史を示す、おかげ灯籠や道標など、人々の往来に伴って建てられた石造物が多く残る。	古堤街道や東高野街道の現状は、街道の魅力を伝えるには難しく、おかげ灯籠や道標も鑑賞物にはなり難いが、痕跡であり過去の記念碑として、移動や街道にのぎわいを記憶に残すすべがとなり得る	おかげ灯籠や道標は、近世のこの土地が交通上の要路であった証であり、大東市の発展の歴史の大きな物語の物証として活かしていく。
		IX・豊かな集落の風景	⑫野崎まいり	江戸時代大評判を呼び、多くの人が押し寄せた十一面観音の短期御開帳。参詣だが、日帰りでできる距離で舟でも行き来できる。気兼ねない庶民のレジャー。今なお二十万人以上の人出がある巨大集客装置。	但し、屋上には来ても、野崎観音の謂れに関心なく、参詣もしない者も多そうで、ましてや大東市への関心などはない。	屋上にしか関心を示さない客を、正しい参詣ルートでの野崎まいり体験などで、野崎まいりの謂れの認識を進め、さらに野崎観音の歴史から大東市域の歴史へと関係づけて、大東市へ関心を転嫁させるストーリー作りを行っていく。
			⑬水郷	御領の水郷風景は、風景として古い町並みが残されており、ビジュアル性が高い。時間的には限られるが、田舟乗船、庄屋屋敷見学など、体験性が高くなる。	御領の水郷風景は、大東市の歴史的資源の中でも特異的にエンターテインメントの可能性を持っている。単体でも観光資源としての価値は高いように思われるが、強力なNo.1競合も、身近な競合も存在する。	水郷、乗船という、御領の持つ魅力一点で争うのではなく、大東の持つ他の歴史的資源との総合力で 価値を高め、来街者を引き付けて行くことが望まれる。
通期	X・歴史ある野崎観音		⑭新田開発の遺構	豊かな集落の風景 新田開発の遺構、歴史的資源として機能するのは平野屋新田会所のみである。	但しそれを持てして、新田会所というカテゴリーでインバウンドを望んでも、単独で一般大衆の関心を集めるだけのインパクトのある情報にはならないだろう	平野屋新田会所という、一つの歴史的資源で人を呼び込んだり、市民に誇りを感じてもらおうのではなく、大東の持つ他の歴史的資源とを組み合わせた総合的な価値を高め、人を引き付けて行くことが望まれる。
			⑮福聚山慈眼寺	慈眼寺は長い歴史を持つ、集客力が現在も高いコンテンツ。寺側が望めれば若年女子層を取り込む新しい祈りの習慣形成は可能だが、現状の野崎まいりは、歴史的資源としてよりも、現代のレジャーの提供で集客を得ている。	楽しみ親しみ、その後に歴史を知ることの効果的なものであるが、野崎に来て楽しい思いをし、その歴史を知るだけでは、大東市域への関心や大東市への誇りに繋がらず、野崎観音だけで終息してしまう。	野崎まいりや新田開発や、十一面観音と飯盛城の三好長慶といった形で、野崎観音の歴史から大東市域の歴史へと関係づけ、の関心や奥深さを知ってもらったり誇りに思ってもらい、関心を転嫁させるストーリー作りを行っていく。

15の物語の活用可能性評価のまとめ、注力度評価

先に示した15の物語を評価し、その重要性和今後の整備における方向性について評価を加える。

活用可能性を対し、イン&アウトバウンド、インナーへの効果が高さを基準にプライオリティを評価する。場合によっては、物語を連動させ、より大きな物語を構築し、個別の資源価値ではなく、物語の総合力でより高い魅力付けを図る。

活用可能性評価と注力度についての考察(古代から中世)

古代

【Ⅰ・曙の記憶】→市民の文化・教養レベルの向上の為の生涯学習的利用に留まる〈×〉

重要な遺物が多いが一般の注目やインバウンドが得られるインパクト性は薄い。研究や展示等の生涯学習的利用の推進に留まる。

【Ⅱ・古代王権との関係】→被葬者に有力豪族が特定でき信憑性が高まればインバウンドも期待できる〈▼〉

堂山古墳の被葬者を「河内王権と渡来人のコーディネーター」といった性格の有力豪族に特定するなど、広く関心を持たれるレベルで、ある程度その説に信憑性が得られれば、「有力豪族と渡来系関連遺跡」としてインバウンドの獲得も可能になる。

【Ⅲ・中央の威令】→市民の記憶から消さないための生涯学習的利用に留まる〈×〉

律令制の痕跡は地名程度にしか残されておらず、現地での確認もできない。現地案内板や生涯学習活動等などの推進に努める。

中世

【Ⅳ-④四條畷の戦い】→現状では、現地案内板や生涯学習など基本整備を図り、機会があればPRに発展させたい。〈×〉

四條畷の戦いの痕跡と考えられる地名も、現在の住居表示ではなく、市民の記憶からさえ見えかねない。現地案内板や生涯学習活動から整備して市民の文化・教養レベル向上を図り、楠木一族の物語に脚光が当たるチャンスに、古戦場争いでPRを図る。

【Ⅳ戦の道-⑤飯盛城と三好長慶】→人気の戦国時代の知られざる壮大な物語で、インバウンドとシビックプライドを獲得できる。〈◎〉

飯盛城は、信長に先立つ戦国の覇者三好長慶が城主であった戦国山城第一級の遺跡である。舟で堺から海外へと繋がりキリシタンも繁栄した、当時の最先端地域の壮大な戦国物語を紡げる。現在はあまり知られていないが知られば関心を得られる。

市民に知られることでシビックプライドを喚起するばかりでなく、それを核に文化的・商業的、観光的イベントなどの実需にも繋がる。

大衆人気の高い戦国物語であり、良く残る城跡の整備を利用して、それを核にインバウンドを獲得する発信ができる。

【Ⅴ・集落の信仰を繋ぐ道】→中世から集落とともに生きてきた社寺のシンボル性を利用し、シビックプライドの向上に活用する。〈△〉

街道は集落を繋ぎ、集落の社寺を繋ぐ。社寺は中世から集落とともにあり、繁栄と来世を願った氏寺・氏神で、一体感のシンボル。

現代的日常風景となっており、観光化の資材にはなり難いが、歴史的背景を伴う集落の生活風俗の継承を支えて、郷土意識、あるいは集落のシビックプライド向上を図ることに活用する。

【Ⅵ・龍間越 祈りの道】→スピリチュアルな宗教的雰囲気を利用し、物語の口コミが生まれればインバウンドも獲得可能。〈▼〉

龍間道は、行者信仰や龍神伝説のスピリチュアルな雰囲気を残す特異的な宗教的歴史的資源の色濃いエリア。現代のパワースポットの扱いをすることで、ミステリアスな空気を醸し出せる。行者信仰・龍神信仰に基づくパワースポットを巡り邪気を払い観音に願い事をすれば叶うといった、コンテンツを回遊する物語を設計し、小冊子や回遊証を用意してインバウンドを獲得する。

古代から中世に於いては「飯盛城と三好長慶」の物語はインバウンドとシビックプライドの両方を獲得を期待できるビッグコンテンツになる可能性が高い。さらに近世まで見ても、これほどの可能性を持つものはなく、現段階では中期的に、計画的に、このコンテンツに注力して成長を図るべきである。生涯学習の為の学術的な整備を核に、その成果を待たずして市民の間に認識を浸透させ期待を抱かせ、市外との連動やP Rを積極的に行って、コンテンツの成長を促進させていくことが期待される。

古代・中世における各物語の現状・判断・指針及びインバウンド評価のまとめ表

時代	大テーマ	テーマ	物語	現状	判断	個別指針(可能性)	インバウンドとシビックプライドにおける評価
① 古代	古代から開けた水辺の邑	I・曙の記憶	①旧石器～弥生期大東市域に人が住み始めたころの記録	先史時代の早期からの多くの重要な遺物が出土している。	学術的に貴重。住民には郷土の歴史として重要。一般の注目を集められるほどのインパクトは薄い。	市民に対し、生涯学習的な利用のための整備を進めて行く。	市民の文化・教養レベル向上のための生涯学習の利用に留まる。 ×
		II・古代王権との関係	②古墳時代の大王政権と、この地の古代豪族の関係	現状は被葬者不詳だが、河内王権と渡来人にも関係の深い、王朝の渡来人コーディネーター的な人物だったとすると、この地域が、渡来人が活躍する最先端地域であった可能性がある。	他の北河内渡来人遺跡と連携し、堂山古墳を「大王側の渡来人コーディネーター的有力豪族の墓」として位置付けられれば、価値が大きく向上する	他地域との連携で、有力氏族や渡来系氏族と堂山古墳の関係を学術的に探究していくアプローチが求められる。	物部・大伴氏クラス有力豪族と特定し、学術的にも信憑性が高まれば、他地域と連携したPRができ、インバウンドとシビックプライドの向上を期待できる ▼
		III・中央の威令	③律令制の痕跡	中央政権の威令が行き渡っていたと思われるが、その痕跡としては条里制の地名くらいしか残っておらず、具体的な文化財と言えるものはない。	一般的な関心が高い分野でもなく、材料に乏しく、ハード、ソフトでの盛り上げは難しい。	学術資料の整備や、現地案内板等で市民の記憶からは消さない事が望まれる。	市民の文化・教養レベル向上のための生涯学習の利用に留まる。 ×
② 中世	北河内の経系 東高野街道	IV・戦の道	④四條畷の戦いを巡って	楠木一族の話は現代には必ずしも受けが良くないが、歴史的な光彩を放つ華々しいコンテンツ。市内に残っていた地名も現住所表記ではなくなった。	コミックなどで楠木一族や高師直の再評価があれば別だが、単独での価値向上は困難。地名の記憶は消えてしまう危険が大きい。	地域の歴史として残すために、記念碑や解説版といった表示は望まれる。	現状では市民の文化・教養レベル向上のための生涯学習の利用に留まる。 ×
			⑤飯盛城と三好長慶の時代	飯盛城は川で海へ繋がるキリシタンが繁栄した当時最先端地域で、信長に先んじ三好長慶が天下の諸政を執った天下城。規模が大きく、遺構がよく残った戦国山城として第一級の遺跡。	三好長慶の飯盛城は、野崎城や三箇城、三箇キリシタン等と繋げて、「織豊時代を先取りして繁栄した戦国時代の最先端地域、飯盛北河内」の物語を紡ぐことが可能である。	・「飯盛城、三好、キリシタン」の研究と整備 ・飯盛城の三好長慶とキリシタンの物語浸透 ・上記の両輪を同時に回しシビックプライドとインバウンドを獲得する。	大衆に人気が高い戦国時代の物語。海外まで巻き込む壮大な話で、天下取りの主流に先立つ知られざる話。知られさえすれば注目される。城跡が良く残り発信の核になる。 ◎
		V・集落の信仰をつなぐ道	⑥山の辺の集落の氏寺・氏神 ⑦淵の辺の集落の氏寺・氏神	街道に沿った集落に中世からあり続けた寺社は、集落の繁栄を守り、人々の往生と来世を願った、氏神、氏寺であるが、現代化された集落の中で日常的な風景になっている	集落外の者にとってはよくある社寺だが、集落の者にとっては、社寺は戦国期から近世、近代に発展した集落の歴史とともにあった、一体感のシンボルとなり得る。	神社と祭礼、寺院と墓参や縁日などの集落の風習や行事とともに、「歴史的背景とともにある生活風俗資産」を次世代に伝承し、集落を活性化するシンボルとして利用する。	観光化の資材として使うのではなく、集落のシビックプライドを高め、市民のこの土地への誇りを活性化することに活用できる。 ▲
	北河内の横系 古堤街道	VI・龍間越祈りの道	⑧修験道と龍神信仰	生駒山と飯盛山の鞍部にある龍間集落は、龍神信仰と不動明王信仰、役行者信仰などの修験道や浄土信仰に関わる特異的な宗教的歴史的資源が色濃く集中しているゾーンである。	従って、龍間を現代まで続く、修験道や龍神信仰のような、若干ミステリアスな宗教的な色彩が強い空間としての空気を醸し出すことが可能な地域と考えられる。	現代まで続く、「不思議な力が得られるパワースポットのエリア」という物語を創成できるベースがあり、今日的なインバウンドマーケットを取り込める可能性があるだろう。	市内の不動巡礼、役行者巡り、八大竜王巡りなど、「パワースポットめぐり」で「邪気を払い、龍間の観音に願い事をすればかなう。」といった、物語とルートを設計し案内板やパンフレットを整備。 ▼

◎ = 強いインバウンドの獲得と高いシビックプライドの形成が期待できる ○ = インバウンドとシビックプライドの獲得が期待できる

▼ = 条件が整えばインバウンド獲得も期待できる ▲ = シビックプライドの形成が期待できる × = 現状では生涯学習の利用に留まる

活用可能性評価と注力度についての考察(近世)

近世

【Ⅶ-⑨治水と豊作を祈る集落の寺社】→集落には特別の氏寺氏神のシンボル性を利用し、シビックプライドの向上に活用する。〈△〉
戦が終わって生産に励み、繁栄と来世を願った氏寺・氏神で、一体感のシンボルとなるが、現代的日常風景化し、観光化の資材にはなり難い。集落の生活風俗の継承を支えて、郷土意識、あるいは集落のシビックプライド向上を図ることに活用する。

【Ⅶ-⑩神々と豊作を寿ぐ・だんじり】→豊作を神とともに寿ぐ神事のだんじりNo.1に位置付けて、インバウンドも期待できる〈○〉
大東のだんじりは、岸和田の町衆が威勢のよさを競うだんじりとは異なる神とともに豊作を寿ぐ素朴な農村のだんじり。
そのNo.1と位置付け、哀愁を帯びたお囃子や、宵祭りの美しさなどを伝えることで、インバウンドの獲得も可能になる。

【Ⅷ-⑪交通の繁栄とおかげ灯籠】→現状では表示もないことが多い。市民の認知を得るところから始める〈×〉
道標やおかげ灯籠は、人心が安定し生産が高まり大東市域の交通が盛んになって行った繁栄の証し。しかし、現代化した街道の脇や社寺の境内で、表示もなく顧みられないものも多い。まずその意味を市民に伝え、教養を高め、シビックプライドに繋げる。

【Ⅷ-⑫野崎まいり】→野崎まいりクルージングなどの大掛りな仕掛けで参拝客拡大も図れるが、基本は野崎観音を利用し参拝者に大東に関心を持ってもらう〈▼〉

野崎まいりは既に確立したレジャーで参拝客数も巨大。これを利用して大東市の歴史への関心を持たせられるような仕掛けを考える。
特に野崎まいりが華やかな頃の屋形舟の復活などできれば、大東の歴史にも触れられる上、PR力もあり参拝客数拡大にも結び付く。

【Ⅸ-⑬御領の水郷】→風景や体験など観光潜在力は高く、今後の改善は可能。現状は他の物語と合体でインバウンドを獲得〈○〉
水郷風景や田舟体験などエンターテインメントの可能性が高いが、まだ改善できるポイントが多い。現状では、だんじりや新田開発遺構などと合体化し「心休まるふるさと大東」を形成する一つの要素として、総合力でシビックプライドとインバウンドの獲得に活用する。

【Ⅸ-⑭新田開発の遺構】→平野屋新田会所跡を他の物語と協働させ「繁栄する農村・大東」の核としてインバウンドに繋げる。〈○〉
新田開発遺構と呼べるのは平野屋会所跡しかないが、「新田が作ってきた繁栄する農村」大東のコアコンテンツ。市民の誇りの源泉であり、他の物語と協働してインバウンドが得られる象徴的存在。整備と認知浸透をしっかりと行う。

通期

【Ⅹ・歴史ある慈眼寺】→野崎の歴史を利用し大東市の歴史への関心拡大に転嫁できる物語で大東へのインバウンド獲得〈▼〉

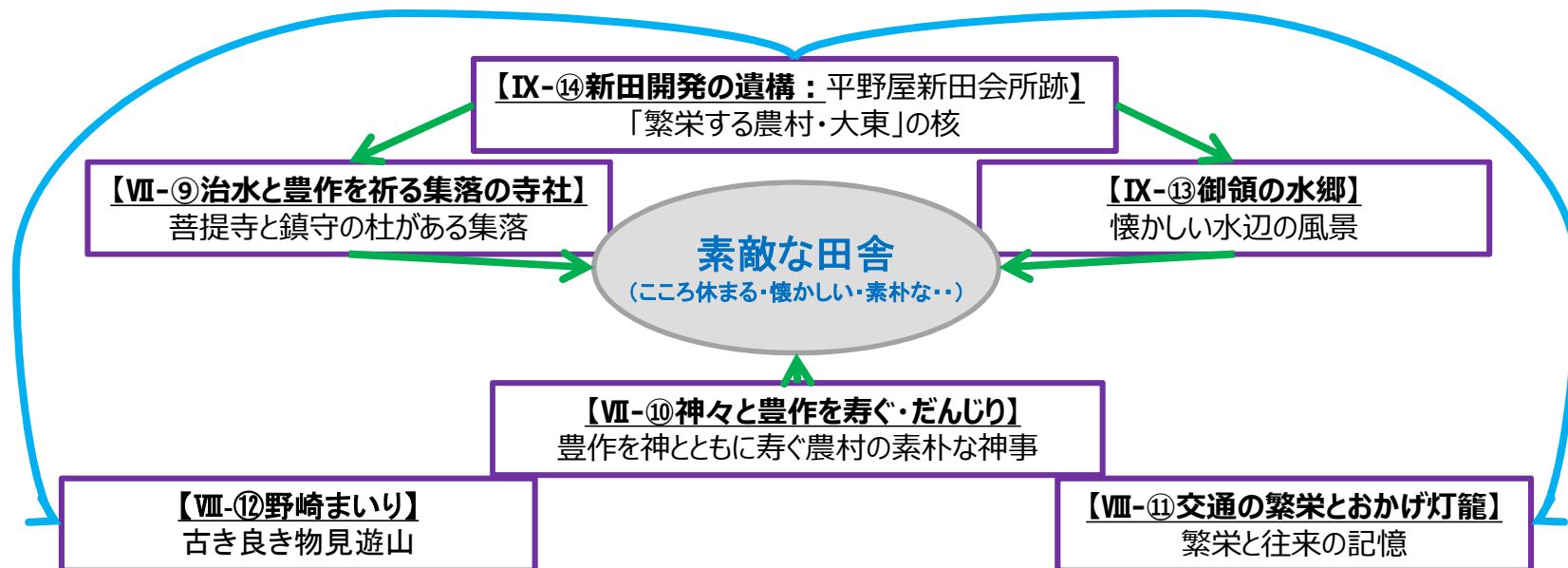
慈眼寺は奈良時代から現代に至るまで、幾つもの人々の関心を誘うコンテンツを持ち、現在でも多くの参詣客を集客している。

お染久松と江口の君のバック詣のような、新しい祈りに依る新規顧客獲得もあるが、現在の客に野崎まいりや新田開発、三好の長谷寺との因縁、観音建立の行基の龍伝説といった大東に関連した物語を提供し、大東市に関心を持たせることでも充分効果的だと思われる。

近世や通期には突出した強力な物語やビッグコンテンツがない。

活用可能性評価と注力度についての考察(近世)

- 近世には突出した強力な物語やビッグコンテンツがない。
- しかし、あらゆる物語に「新田開発に依る繁栄する農村への進化」という一つのテーマが見える。
- それは市民にとって、近世以降の、新田を基盤とした豊かな農業地帯を人の知恵と力で作ってきた歴史である。そしてそれは、この土地に住む人々のシビックプライドに繋がる豊かな物語である。
- 加えてインバウンド獲得の視点で、近世の具体的な個別物語が現代にもたらす価値を再度見直して見る。



大東市は「北新地から17分で着く素敵な田舎。こころ休まる故郷の風景。」という価値を持ち得る。

- 大東市民にとって、近世以降の「新田開発を基に繁栄してきた農村地帯」の物語は、この土地に住む人々にとって、豊かな農業地帯を人の知恵と力で作ってきたシビックプライドに繋がる大きな物語である。
- 市民以外に対しては「北新地から17分で着く素敵な田舎」という価値でインバウンドを期待できる。
- 但し、現状でそれを訴求してインバウンドを得ると言うよりも、それぞれの物語に「大東市は素敵な田舎だ」と市民がその価値を認めるような市民への共感を図り、市民の評価が外部に伝わるような形が効果的と思われる。

近世・通期における各物語の現状・判断・指針及びインバウンド評価のまとめ表

時代	大テーマ	テーマ	物語	現状	判断	個別指針（可能性）	インバウンドとシビックプライドにおける評価	
③ 近世	豊かな暮らしへの歩み	Ⅲ・豊かな暮らしへの祈り	⑨ 治水と豊作を祈る集落の氏寺・氏神	戦国が収まった後の社寺は、ようやく安心して生産に励み出した集落の農民たちが雷神や水神を祀り、水の不安から逃れ、安穏と往生を願って祈念した大衆の為の社寺である。	歴史や造作物にも見るべきものもあるが、社寺単体でのインバウンド獲得は期待困難。但し中世の社寺と同様に集落にとっては特別な氏寺、氏神であり、一体感のシンボルとなる。	その歴史とともに伝統行事、習俗を伝え、一体感を体感するとともに、豊かに発展してきた集落の歴史を認識することで、誇りある集落としての活性化に利用していく。	観光化の資材として使うのではなく、集落のシビックプライドを高め、市民のこの土地への誇りを活性化することに活用できる。	△
			⑩ 神々とともに豊作を喜ぶ＝だんじり	大東市のだんじりは、「集落の氏神とともに豊作を寿ぐ」農村型神事の原型を色濃く残すものである。	大東と岸和田のだんじり祭りは、全く異なる祭りであり、比べるべきものではないのだがどうしても「だんじり祭り」として一括して見られがちで、比べられると、NO.1にはなれない。	大東のだんじりを「威勢の良さを競う町衆だんじり」とは違う「豊作を神と共に寿ぐ素朴な農村だんじり」のNo.1に位置付けて、神事である魅力を高めインバウンドを獲得する。	哀愁を帯びたお囃子や、宵祭りの美しさなど、素朴な里人の祭りとして日本人の琴線に触れる要素は豊富。位置づけを変えることでインバウンドは充分見込める。	○
		Ⅲ・賑わう往来の記憶	⑪ 交通の繁栄とおかげまいり おかげ灯籠	大東市には、人心が安定し経済が向上し、往来が活発になったこのエリアの歴史を示す、おかげ灯籠や道標など、人々の往来に伴って建てられた石造物が多く残る。	古堤街道や東高野街道の現状は、街道の魅力を伝えず、おかげ灯籠や道標も鑑賞物にはなり難いが、過去の記念碑として街道のにぎわいを記憶に残すすがとなり得る。	おかげ灯籠や道標は、近世のこの土地が交通上の要路であった証として、大東市の発展の歴史の大きな物語の中で、物証として活かしていく。	現状では、表示もなく、市民にも認知されているか疑問。まず市民にその意義、意味を知らせることから始め、この土地への誇りを活性化につなげる。	×
			⑫ 野崎まいり	江戸時代大評判を呼んだ観音の短期御開帳での参詣は、舟でも行き来でき日帰りできる、気軽な庶民のレジャーだった。今も二十万人以上の巨大集客ができる。	但し、屋台には来ても、野崎観音の謂れに関心なく、参詣もしない者も多そうで、ましてや大東市への関心などはない。	屋台客を、正しい参詣ルートや船による野崎まいりの体験などで、野崎まいりの謂れの認識を進め、さらに野崎観音の歴史から大東市域の歴史への関心へと転嫁させていく。	野崎まいりクルージングの定期化などダイナミックな仕掛けができれば話題化でき、大東市の水運の歴史への理解も深まる。	▼
		Ⅲ・豊かな集落の風景	⑬ 水郷	御領の水郷風景は、風景として古い町並みが残されており、ビジュアル性が高い。時間的には限られるが、田舟乗船、庄屋屋敷見学など、体験性が高く楽しめる。	御領の水郷は、大東市の歴史的資源の中でも特異的にエンターテインメントの可能性がある。単体でも観光資源としての価値は認められるが、強力なNo.1競合も、身近な競合も存在。	水郷、乗船という、御領の持つ魅力一点で争うのではなく、大東の持つ他の歴史的資源との総合力で 価値を高め、来街者を引き付けて行くことが望まれる。	観光資産としての潜在力はある。田舟運航の定期化、辻本家の宅内見学、来街者の交通手段など、改善や魅力高揚は可能。現状でも他の魅力と抱合せて、効果を出せる。	○
			⑭ 新田開発の遺構	豊かな集落の風景 新田開発の遺構、歴史的資源として機能するのは平野屋新田会所のみである。	但しそれを持ってして、新田会所というカテゴリーで単独でインバウンドを望むには一般大衆の関心を集めるだけのインパクトをもたせる工夫が必要。	平野屋新田会所一つの歴史的資源で人を呼び込んだり、市民に誇りを感じてもらおうではなく、大東の持つ他の歴史的資源を組み合わせた総合的な価値を高め、人を引き付けて行く。	単一資産だが「新田が作ってきた繁栄する農村」大東のコアコンテンツ。市民の誇りの源泉であり、他の物語と協働してインバウンドが得られる象徴的存在。整備と認知浸透をしっかり行う。	○
通期	X・歴史ある野崎観音	⑮ 福聚山慈眼寺	野崎観音は、奈良時代からの長い歴史を持つ、現在も単体で集客力が高いコンテンツ。特に野崎まいりは歴史的資源としてよりも、現代の楽しみ、レジャーを提供し集客を得ている。	楽しみ親しみ、その後に歴史を知ることとは効果的だが、野崎を楽しみ、その歴史を知るだけでは、大東市域への関心や大東市への誇りに繋がらず、野崎観音だけで終息してしまう。	野崎まいりと新田開発や、十一面観音と飯盛城の三好長慶といった、慈眼寺の歴史と大東市域の歴史を関係づけ、大東市への誇りや、関心に転嫁させる物語作りを行っていく。	現参詣客への大東市の歴史への関心拡大施策を打てればそれでも充分だが、慈眼寺が（例：お染久松塚と江口の君のバック詣で等）新規客拡大開発に同意、訴求できればさらに大きくなる	▼	

◎ = 強いインバウンドの獲得と高いシビックプライドの形成が期待できる ○ = インバウンドとシビックプライドの獲得が期待できる
▼ = 条件が整えばインバウンド獲得も期待できる △ = シビックプライドの形成が期待できる × = 現状では生涯学習的利用に留まる

大東市 歴史的資源活用基本方針(総括)

- 1・大東市は古代と近世初期に、水域の地勢条件が2度、大きく変わるという、非常に特殊な歴史を経てきた。
- 2・常に水とともにあり、人類が土器さえ持たない太古から、連綿と生活が続けてこられた豊かな地味の地域であった。
- 3・古代には河内南部の王権とも、北河内に居る高い技術を持つ渡来人とも強い関係を伺わせる先端地域であった。
- 4・また、中世以前の大東市域にも、現代に直接つながるものではないが、交通の要所として重要な役割や、激動の場を提供した、忘れられた過去、歴史がある。
- 5・特に飯盛城が三好長慶の居城であった時代、大東市域は、人やものが往きかたり、京都文化が流れ込んだり、新しいキリシタンの習俗が流れ込んだりした、先端地域であった。
- 6・その痕跡はいまや僅かに城跡が残されているにすぎない。これを整備し、伝承を整理、顕彰し、一つの物語として伝えて行くことで、この地域の市民ばかりでなく、他の地域の人々からも驚きと関心を持たれる可能性を持っている。
- 7・加えて、近世以降の、新田を基盤とした豊かな農業地帯を人の知恵と力で作ってきた歴史は、この土地に住む人々の誇りとなる豊かな物語を持っている。
- 8・この土地に暮らす者にとっては、新田による発展の物語は、現在を生きる誇りを与え、将来に繋がる勇気を育む。
その為に、新田開発による近世の発展を今に伝える物語とそれを伝える事物としての歴史的資源を、市民に伝え広めて行くことは有用である。
- 9・以上のように大東市には、古代や中世の最先端地域として大いに発展繁栄した過去があるがあまり知られていない。
- 10・この知られざる繁栄の物語が他地域の人々には、その現場となった大東市域への関心と来街意向を高める。
また来街者をもてなす物産や、サービスの振興を起こす活用へと繋がるだろう。
- 11・また、市民に於いては、はるか昔の最先端の繁栄の物語と、近世の人の知恵と力で豊かさを発展させた物語が、大東市に生きることへの関心と誇り、そして勇気につながるだろう。
- 13・大東市に存在する多くの歴史的資源を、「知られざる最先端の繁栄の物語」と、「近世の人の知恵と力で豊かさを発展させた物語」のコンテンツとして利用することで来街者に向けたインバウンド、アウトバウンドの拡大と、市民に向けたシビックプライドの形成に寄与させて行くものとする。

参考資料

総合

1. 大東市文化財マップ（大東市教育委員会）
2. 歴史散歩道大東（大東市教育委員会）
3. 大東市ふるさとカルタ（大東市教育委員会）
4. 大東市史 通史編（大東市教育委員会）

古代

1. 大東市立歴史民俗資料館常設展図録（大東市立歴史民俗資料館）
2. 大東市埋蔵文化財分布図（大東市教育委員会）
3. 中垣内遺跡と弥生文化の始まり（平野屋新田会所を考える市民講座）
4. 堂山古墳群史跡広場パンフレット（大東市教育委員会）
5. 堂山古墳群のひみつ（平成24年度特別展図録）（歴史民俗資料館）
6. 現代語訳 日本書紀（河出書房）
7. 四條畷市歴史民俗資料館 公式ホームページ

中世

1. 河内飯盛城パンフレット（摂河泉地域文化研究所）
2. シンポジウム飯盛山城と戦国時代の河内（摂河泉地域文化研究所）
3. シンポジウム飯盛山城と文人三好長慶（摂河泉地域文化研究所）
4. シンポジウム飯盛山城と河内キリシタン（摂河泉地域文化研究所）
5. 大阪春秋 特集 飯盛山城と戦国大阪（新風書房）
6. 歴史街道「日本の統治者」と呼ばれた三好長慶の実像（PHP出版）
7. 飯盛山城遺跡測量報告書（大東市教育委員会）
8. 飯盛山城縄張り測量図（大東市教育委員会）
9. 今谷明, 天野忠幸(編)三好長慶（宮帯出版）
10. 近世の三箇キリシタン（だいとう学テキスト（大東市教育委員会））
11. 野崎専応寺（平成26年度特別展図録）（歴史民俗資料館）
12. 大東市域の昔話と昔の暮らし（だいとう学テキスト（大東市教育委員会））
13. 奈良長谷寺公式ホームページ
14. 徳島鳴門長谷寺公式ホームページ

近世

1. 大東市域の河川と水の利用（だいとう学テキスト（大東市教育委員会））
2. 大東のだんじり(平成25年度企画展図録)（歴史民俗資料館）
3. 大東市史 近現代編（大東市教育委員会）
4. だんじりを活かした地域共同事業 報告書（地域共同事業実行委員会）
5. 大東市文化財ガイドブック1 石の文化財（大東市教育委員会）
6. 大東市域の交通路と野崎まいり（だいとう学テキスト（大東市教育委員会））
7. 野崎まいりとお染久松(平成21年度特別展図録)（歴史民俗資料館）
8. 野崎観音福聚山慈眼寺 公式ホームページ
9. 環境省 環境用水の導入事例集23・御領用水
10. 大東市公式ホームページ だいとうの見どころ案内
11. City DO! ホームページ 大東市 おでかけガイド
12. 近世大東の新田開発（歴史民俗資料館）
13. 市民フォーラム「平野屋新田会所を国史跡に」資料（平野屋新田会所を考える会）
14. シンポジウム平野屋新田会所その歴史と意義を考える（大東市教育委員会）
15. 探訪平野屋新田会所跡（大東市教育委員会）
16. 平野屋新田会所跡-保存整備に伴う確認調査報告書-（大東市教育委員会）
17. 平野屋新田会所跡発掘調査概要（大東市教育委員会）
18. 平野屋新田会所跡確認調査概要報告書（大東市教育委員会）
19. 旧平野屋新田会所屋敷と建物（大東市教育委員会）

【写真提供（掲載順）】

大阪府教育委員会
福聚山慈眼寺
戸森山専應寺